

シリーズ豊前市 SDGs とは？ “誰一人取り残さない持続可能な社会”を実現する世界共通目標である SDGs。全部で 17 個ある SDGs の目標を、地域の視点を取り入れ、そして一人一人ができる取組事例を取り入れて、毎月 1 つずつご紹介していく 2022 年 1 月から開始した連載です。地域の未来のために、私たちと私たちの大切な人が持続可能であるために。豊前で始める最初の第一歩。毎月 SDGs を一緒に学びながら、**自分にできることを一緒に始めていきましょう。**

目標5「ジェンダー平等を実現しよう」 すべての女性や女の子が能力を最大限に発揮できる社会をつくる
すべての人が性別にかかわらず平等に機会が与えられる社会をつくる



5 GENDER EQUALITY ジェンダーってなんでしょう？「男性はこうあるべき、女性はこうあるべき、するべき」と、みんなが無意識に決めつけている女性と男性の違い(社会的・文化的に形成された性別のこと)を「ジェンダー」といいます。たとえば「外で働くのは男性で、家のことをするのは女性」「男性は青、女性はピンク」と決めつけること。こういった先入観が、ジェンダーの不平等や差別を生んでいます。世界にある1つの例として「児童婚」、2018年にユニセフが公表した最新の推計データでは、世界中で18歳未満の子ども時代に強制結婚させられているのは年間**1,200万人**。たった1日で**3万人**の女の子が望まない結婚をさせられていることとなります。途上国では11歳で妊娠させられる女児の例などもあります。2030年までにこの問題を解決することができなければ、新たに**1億5,000万人**が児童婚をさせられ、将来への希望を絶たれ続けてしまいます。SDGsが目指すのは、**男性も女性も社会的に平等であること**。男性だから、女性だからとさまざまな差別を受けることのない社会をつくる努力が必要です。



豊前市の取組 | 第2次豊前市男女共同参画行動計画

ジェンダー差別の問題は途上国だけの問題ではなく先進国においても形を変えて起こっています。男女の格差を比べた2021年の「ジェンダーギャップ指数」によると、日本は156カ国中120位。日本は経済と政治の分野で世界から見ても遅れています。この順位が教えてくれるのは、社会の中で男性、女性が平等であるために、日本の社会が解決していかななくてはいけない問題がまだまだたくさんあるということです。

豊前市では、「男女がともに輝くまち ぐぜん」を基本理念とし、第2次豊前市男女共同参画行動計画を策定し、5つの基本目標のもと56の事業を掲げています。事業の内容は、地域における慣習見直し、女性の登用促進、ワーク・ライフ・バランス推進、子育て・介護環境の整備、DV・ハラスメント防止、ひとり親家庭への支援など、多岐にわたります。

豊前市では、性別に関わりなく一人一人が自分らしく生き、輝くことができる社会の実現に向けて、拠点施設の充実や、教育の推進、環境づくりなどに取り組んでいます。



お問合せは 豊前市人権男女共同参画室男女共同参画係 ☎82-8003

SDGsの主人公はわたしたち 身近なところにある SDGs
一人一人ができる取組事例



目標5「ジェンダー平等を実現しよう」は、すべての女性や女の子が能力を最大限に発揮でき、そしてすべての人が性別にかかわらず平等に機会が与えられる社会をつくるのが目標です。今回ご紹介する取組以外にも、個人でできる取組はたくさんあります。

まずは新聞や公共施設など周囲に目を向け、身近に自分ができる取組が紹介されていないか、そしてヒントが隠れていないか探し、できることから始めましょう。

<わたしたちにもできること>

- ① ジェンダー平等に興味をもち、理解すること
- ② 家庭内や自分自身の持つ性への価値観とも向き合い考えてみる
- ③ お父さんとお母さんが仕事も家事も子育ても協力し合い、平等に分担すること
- ④ 女性が活躍できるような環境を整備すること

株式会社ニコン日総プライム 水谷洋司(英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー)